次の［課題文］と［統計］を読んで，［設問］問1～問3に答えなさい．解答は解答用紙の所定の欄に横書きで記入しなさい．

[課題文]

世界経済のグローバル化は，今日避けがたい潮流として受け止められるようになっている．こうした動きに対応するために，各国経済は国内の産業構造を調整し，国際競争力を維持，強化していかねばならないという困難な政策課題を抱えることになった．地域経済に根差した中小企業を多く抱える日本経済もその例外ではない．日本政府には国内産業の国際競争力を維持強化するために，多面的な政策を展開することが求められているが，それと同時に，中小企業の側にも自ら活路を切り開いていく持続的な経営の見直しが期待されている．

これに応える形で，国内のいくつかの地域では，すでに中小企業による新たな試みが始まっている．たとえば，福井県鯖江市の眼鏡枠産業，新潟県燕市の洋食器産業や新潟県五泉市，見附市のニット外衣産業の中小企業経営者達は，産業集積の優位性をこれまでとは異なる形で活用し，国際競争力の復活に取り組んでいる．

この動きをより具体的に捉えるために，以下では，新潟県五泉市，見附市のニット外衣産業（セーターやポロシャツ，あるいは一部婦人物スーツ等の製品として，織物ではなく編立てにより外衣を生産する産業）を取上げ，各ニット外衣メーカーで採られている多種多様な対応策を概観してみる．

五泉市，見附市の多くのニット外衣メーカーは，長年にわたり大都市の大手企業がデザインした商品を，その指示通りに生産すればよいという下請体制の下にあった．そのためニット外衣メーカーとそれを支える再下請企業や家庭内職者は，生産技術や熟練技能においては習熟した集団ではあったが，販売力，新商品企画力やデザイン力の面ではほとんど未開発の状態であった．このような産地での大手企業依存体質を常態とする状況の中で，［統計］の表-1から表-3に示したような変化が生じ，これらニット外衣メーカーは新たな対応を迫られることになった．対応の方向性は，以下の四つに整理することができる．

1. 従来から取引のある大都市の大手企業に対して，独自のデザイン，新素材の使用，新加工技術の導入，複数素材の組み合わせなどを提案し，独自の新商品を開発していく．
2. 高級ファッション製品など，変化の激しい市場のニーズに迅速に対応できる生産体制を編成し，需要を確保すると同時に，在庫規模の適正化を図る．
3. 自社ブランド商品を開発し，大都市の大手企業を通さず，直接小売市場に供給することで流通コストを削減し，他方で消費者のニーズをより適切に把握する．
4. 生産工程の国際分業を進める．すなわち，労働集約的工程を人件費の安い中国に移し，その半製品を国内の工程に組込むことで，高級品を安い価格で供給する．

いずれの対応策にとっても，開発や生産面における地元関連企業との連携や，習熟した技能を持つ家庭内職者の活用を新たな形で図ることや，国際的工程間分業を視野に入れることなどが，その前提として重要であることが読み取れる．これらの企業の対応努力は次第に実を結び，ニット外衣製品の日本国内市場においては中国製品と対抗する形で，国内産地企業が開発した新商品が顔をのぞかせ始めている．

ここで例として取上げたニット外衣産業は，製造業全体から見ればそのほんの一角を占めるにすぎない．しかし，ニット外衣という特定産業の枠を越え，そしてまた中国と日本という二国間の枠を越え，この産地型産業が描いた国際経済自由化への挑戦のシナリオは，日本経済が国際経済の一員として，より積極的に貢献する方途を探るうえで，示唆に富むものである．

[統　計]

表-1　全国ニット製品製造業の推移

a　1985年～1993年

年	1985	1988	1990	1993
事業所（工場）数	6,243	6,947	6,980	6,749
指数　1985年＝100	100.0	111.3	111.8	108.1
生産額　(100 億円)	123.6	130.6	136.8	124.3
指数　1985年＝100	100.0	105.7	110.7	100.6
従業者数（人）	127,470	135,418	131,948	123,785
指数　1985年＝100	100.0	106.2	103.5	97.1

b　1995年～2000年

年	1995	1998	2000
事業所（工場）数	5,411	4,998	4,031
指数　1995年＝100	100.0	92.4	74.5
生産額　(100 億円)	85.2	72.4	52.6
指数　1995年＝100	100.0	85.0	61.7
従業者数（人）	89,174	77,763	60,601
指数　1995年＝100	100.0	87.2	68.0

備考：1)　表-1 をａとｂに分けているのは，日本標準産業分類が改訂されたことによる．ただし，ニット製品の範囲はほぼ同一と見なすことができる．
2)　これらの表には，4 人未満の事業所の統計値は含まれていない．
3)　本表での「生産額」には『工業統計表』の「製造品出荷額等」を用いている．

資料：『工業統計表　産業編』各年版

表-2　ニット製品の輸入額の推移

a　1988年～1993年

年	1988	1990	1993
輸　入　総　額（億ドル）	28.2	29.2	48.3
指数　1993年＝100	58.4	60.5	100.0
うち中国から(億ドル)	5.6	8.0	21.8

b　1993年～2000年

年	1993	1995	1998	2000
輸　入　総　額（100億円）	53.2	71.5	84.7	88.3
指数　1993年＝100	100.0	134.4	159.2	166.0
うち中国から(100億円)	23.8	36.8	54.2	66.5

備考：1)　表-2 をａとｂに分けているのは，資料の統計が1993年までは US ドルベースであり，1993年以降は円ベースであることによる．
2)　本表での「ニット製品」は，厳密な意味では表-1 と同じものではないが，ほぼ同一のものと見なすことができる．

資料：『通商白書　各論』各年版

表-3　新潟県五泉市・見附市のニット外衣製品の生産額と従業員数の推移

年	1990	1993	1995	1998	2000
生産額（100億円）	10.85	9.79	8.38	6.35	5.69
指数　1990＝100	100.0	90.2	77.2	58.5	52.4
従業員数（人）	6,636	6,401	6,252	4,868	3,933
指数　1990＝100	100.0	96.5	94.2	73.4	59.3

備考：1)　1998年から2000年にかけては，調査対象が多少拡大しているため，厳密な意味でのデータの連続性はない．
2)　ここでの，従業員数は，表-1の従業者数とほぼ同一のものと考えても問題はない．
3)　ここでの「ニット外衣製品」は，表-1，表-2での「ニット製品」の主要部分を構成している．
資料：新潟県ニット工業組合による統計

[設　問]

問1　五泉市，見附市のニット外衣産業で生じた変化を表-3から読み取り，その変化について，表-1，表-2から得られる情報を活かして，160字以内で説明しなさい．

問2　統計で見たニット製品の生産・輸入状況と，課題文で示した五泉市，見附市のニット外衣メーカーの企画・生産・販売体制の再編は，日本国内のニット製品の消費者に対してどのような利益を生じさせるかを，400字以内で述べなさい．

問3　課題文は，五泉市，見附市で，現在および将来働く人へのメッセージと受け止めることもできる．この観点から，そこで雇用され働く人には，今後どのようなことが求められるかを述べなさい．さらに，それらのことを実現していくことと，世界経済のグローバル化との間には，どのようなつながりがあるか，課題文をふまえて説明しなさい．以上を，400字以内でまとめなさい．